

## 「誰一人取り残さない授業づくり」研修会

### － プロジェクト理念 － 「すべての子どもに自ら学びをつくっていきける姿を」

昨年度までの、『考える力』を育む授業づくり研究会を『誰一人取り残さない授業づくり』研修会に変更し、プロジェクトをスタートしました。今年度は、プロジェクト理念「すべての子どもに自ら学びをつくっていきける姿を」の下、『子どもの実態や発達段階に即して』『誰一人取り残さず、子ども一人ひとりに自ら学びをつくっていく力を育む』授業、授業研究の進め方の具体例を置賜管内に発信する。」ことをミッションとして当日の授業や事後研究会を実施しました。3教科ともにより良い実践となりましたので、紹介します。ご覧ください。

本プロジェクトの実施にあたり、ご協力いただいた教科研究員の先生方及び会場校の先生方、そして研修会にご参加くださり熱心にご協議いただきました先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。これからもチーム置賜で「子どもも大人も、ともに学び合える喜びを感じるような一日、一日」の実現に向けて誰一人取り残さない授業を創造していきましょう！

### 【実践の概要】 ◎:授業者

研修会の指導案及び資料等はこちらのQRコードからご覧になれます。ぜひご活用ください。



<https://onl.sc/rcedrxj>

### 《 国語 》

(小学校第4学年で実施)

研究員:◎芳賀 弘善 教諭、藤田 美穂 教諭、小野 裕美 教諭

#### 学びの意欲をどの子にも!!

学びの意欲を育て、それを持続させていくために、単元構想の工夫や言語活動の充実を図った実践を行った。教科横断的な学びの観点から、総合的な学習の時間との関連や年間カリキュラムのモデルも提示した。



**単元名** 「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう～伝統工芸のよさを伝えよう～」

#### 【研究員の声】

- はじめは「誰一人取り残さない」と聞くと、どきどきしたが、すべての子どもの心に火がついていけば(学ぶ意欲が高まっていけば)、取り残されることはないだろうということを改めて認識することができました。今後も、子どもの主体性をそがず、生き生きと毎日を過ごしていけるように支援していきたいです。
- 国語科として育成すべき資質・能力をしっかりと身に付けさせることも、「自分ならできる!」と思えるようになるために大切ですが、その前提として、子どもにとって興味・関心のもてる学習であるか、学ぶ必要性や意義が感じられるものであるかといったことが大事だと思いました。
- どの子どもにも意欲をもたせること、学びたい、学ぶことは楽しいと感じさせることだと思ようになりました。また、仲間と共に学ぶことの良さ、選択すること、自由度を広げることの効果も感じられました。子ども達の意欲を起こさせること、「わからないから教えて」と言える環境づくりなども、これからは大事にしていきたいと思います。

#### 【参加者の感想より】



「誰一人取り残さない授業」はそうでありたいが難しいと考えていました。しかし、この研修会でどんな課題にも向かっていける資質・能力を全ての子どもに身に付け、自分で学びをつくっていきける子どもを目指していくことだとお聞きして、「誰一人取り残さない授業」の姿がよりはっきりしてきました。



教師だけではなく、子どもも共にそのゴールを明確に理解して授業に向かうことができれば、教師主体ではない、子ども主体のまさしく子どもの意欲を持続させられる授業ができるのではないかと思います。

## 《 外国語 》

(中学校第1学年で実施)

研究員: ◎飯澤 喜 教諭、岡村 美和 教諭、高橋 利幸 教諭、衣袋 理佳 教諭

### 自ら学びをつくるには?

英語力の差を越えて「どの子どもも夢中になる瞬間がある」。子どもの内側にある「～したい」という思いを引き出すために、教師の役割や題材を見極め、ねらいに沿った中間指導、児童生徒との単元目標の共有を図り、自分のペースや学び方で繰り返し粘り強く取り組めるようにした。

**【単元名】** ◆「Foreign Artists in Japan 日本に暮らす外国人アーティスト」



#### 【研究員の声】

- 「『誰一人取り残さない』とは、どのような授業をつくることなのだろう…」と考えるところからのスタートでした。一律のゴールだけがすべてではなく、個性豊かな子ども達がそれぞれに学びをつくる先に存在するゴールも大切だと思ふようになりました。子どもの学びを支えるために、見取りと支援を適切に行っていきたいです。
- 言語活動のなかで「目的意識」や「相手意識」、「必要感」をこれまで以上に意識するようになりました。その結果、子ども達の「コミュニケーションの学びをつくっていく姿」に出会うことができました。
- 「目的・場面・状況」の設定や「相手意識」は、他の教科にもつながることが多く、今後も授業を考えるときに中心に据えていきたいです。
- 子ども達が「伝えたい」という思いを発揮できる学習を考えることが、「すべての子どもに自ら学びをつくっていく姿を」につながっていくのだと感じました。

#### 【参加者の感想より】



子ども達の「～したい」という思いと目的がはっきりとした授業だったので、生徒は活発に言語活動に取り組み、学びを積み上げていました。自校でも目的をはっきりさせた授業づくりの大切さを共有し、実践していきたいです。

中間指導で誤りをどこまで訂正するかについて、これまで悩んでいました。事後研で考えが深まり、自分なりの答えを見つけることができました。目標に照らして、中間指導でねらう内容を絞っていききたいと思います。



## 《 算数・数学 》

(小学校第3・4学年で実施)

研究員: ◎二瓶 静 教諭、柴田 志保 教諭、片倉 裕子 教諭

### 子どもが自ら学びに向かう姿を目指して 自由進度学習に挑戦!

校種を問わずに「子ども達の学習内容の理解度の差」が大きな課題であることを確認し、自由進度学習の可能性を探った。

**【単元名】** ◆ 第3学年「分数を使った大きさの表し方を調べよう」  
◆ 第4学年「分数を調べよう」



#### 【研究員の声】

- 今までの自分の学習指導や生徒指導について考え直すとてもよい機会となりました。第2回目の全体会で、自己決定や自己選択は他教科でも大切であることが分かり、今後の指導に生かしていきたいと思います。子どもの新たな一面を見て、一人ひとりの良さががんばりに気付くことができ、これからの自分の励みになりました。
- 一斉授業の時は黙ってそこにいるだけだった子も、自由進度学習では「自分が」「自分で」という意思をもって、のびのびと安心して学習に取り組んでいく姿を見て、うれしくなりました。自由進度学習での教材研究の視点は、一斉授業でも生きてくると信じています。
- 自由進度学習の時間、子ども達全員が生き生きと学ぶ姿がありました。どんな子どもの中にも学びたい意欲があることを実感し、教師は子ども達のよき伴走者でありたいと思いました。子ども達が自分の足でゴールにたどり着く喜びを感じられるような授業ができるよう、これからもチャレンジしていきたいと思います。

#### 【参加者の感想より】



単元内自由進度学習は、まさに個別最適な学びと捉えています。事後研で出された課題は、一斉学習でも言えることが多いと感じました。色々言う前に、まず自分もやってみようと思います。子どもの変容に加え、担任されている先生の、子どもの学びの捉え方の変容を聞くことができてよかったです。

自由進度学習は個々の学びだけと捉えていましたが、逆に、一人で考える→様々な人や資料と関わる(手段も自己選択する)ことは、学び合いそのものであると気付くことができました。



学年の枠を超えて教え合う姿や、わからない子が進んで聞きに行く姿から、「わかりたい」「勉強したい」という子ども達の思いが見えたような気がしました。